



小島友実の あの馬の **STORY**

今回の紹介するのは西園正都厩舎に所属するペイントグレーブ。この馬が戦1勝。トロリー戦で高づバーマンズを発揮したところが、この馬のレースぶりで今後の可能性について西園調教師に向いました。

「…後に話してしまったね」
幸い脚元に異常はない、在厩して調整。年明け1月5日に中京競馬場で行われた第2戦へ向かい、5着で…た。

ねじ。逆にいえば、現段階の状態で初回戦では強て勝ち方を見せられたから、やはり持つてこぬボタンがヤルは高し。今後、ぐんと伸び成長すれば力を發揮できるはず」と語る。『アメ横』開幕戦は「アマタマ」

元々、1歳馬募集時から、「全体的にバランスが整っていて、馬体から出る雰囲気がいい」と評価され、オーラがあつまると西園師の評価が高かつたスマラグニア。西園師は順調に進み、昨年8月に栗東トレーニングセンターに入厩。9月25日に中山競馬場で行われた芝2000メートル戦で「1コーチ」を獲得した。まずはこの条件で初戦を迎えた理由から西園師に振り返って頂きまし

「好スタートから一番手に上がり、4コーナーまでは思ったよりの競馬ができた」と思いながら、直線で伸びてくれるかななど見てはいたのですが、思ったより伸びませんでした」

「普段は飼い葉食いが良いタイプですが、今回のレース後は初めて残していました。見えない疲れがたまっていたのか、それませんね。この馬なりに、ずっと頑張ってきたのだと思ってます。だから、この後は放牧に出しました」

会員の皆様にメッセージを頂いた事
た。

「好位に上り、上がる最速の脚で伸びた。初戦は危なげない内容の快勝でした。

それもした。「デビュー前の調教では、77秒8の好時計をマーク。一歳の末出走馬で6歳の馬を80秒切り馬はそうはしませんからね。調教の動き通りの良い勝ち方で、思った通りに走る馬だな」(感じましたね)

2戦目は11月26日、阪神競馬場での「ジョコワード」杯京都4歳ステークスへ向かいましたが、結果は12着でした。

「ふのたじ感」
「ふのぬれ」とは具体的にはじてこんな要素が
考へられるのぢつといか。

「やがて直線での不利が大きかったのです。二回目の走りの流れも悪しかったが、それで不正駆け足になら、後に逆下がってしまった。松山弘平騎手は『あの不利がなれぱ、3着はあつまつした』と

「崩毀めやこかやな面がある」、競馬場でよく見所では結構みんな仕事を見せます。まだ心は幼いのでしょうか。馬体面でもキ甲が抜けているので成長の余地があるし、馬体重も少し増えているのがあります。

会員の皆様のご期待に添えるよう、既全
じして力を尽くしますので、応援よ
しくお願ひいたします

確かに、デビュー戦のパフォーマンスは本当に印象的でしたね。スマハグドースの素質が開花する日を私も心待ちにして応援してきたいと思います。

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます(主婦の友社刊)」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材を行っている。

profile

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます(主婦の友社刊)」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材を行っている。